

文章題テスト・小説(4)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(校内の水泳大会、百メートル自由形には五人が出場した。五年生の高木達也^{たかぎ たつや}は他の四人がすでにゴールしたのにまだヒツシ^アに泳ぎ続けていた。)

みんなはもう総立ち^{そう}だった。見ている、四年生から六年生まで百二、三十人の目が、プールの一点につきささっていた。

五年生の席から、康一^{こういち}が真っ先に飛び出した。れい子が目を真っ赤^かにして、あとに続いた。実^{みの}も雄吾^{ゆうご}も邦男^{くにお}も、いや、大矢先生^{おおや}もプールサイドにかけてきて、さげんだ。

ヨイシヨ

もう、みんなはあらんかぎりの声でほえた。自分が泳いででもいるかのように、手をふり上げた。足ふみをした。達也^{イチ}は土気色の顔をこちらに^ムけて、それでもちよつとずつ、ちよつとずつゴールに近づいていく。

校長先生の声が飛んだ。

「がんばれっ。負けるな高木。まだまだいけるぞ。」

けれども、ロープにぶつかって方こうを立て直すときには、今にもしずんでしまいそうに、ぐらつとゆらぐ。そしてまた、あのタンチョウ^ウなパチャリという音がよみがえってくる。

2 康一はじれたそうにわめいた。

「タックン。あと、あとは十メートル。もうひと息だぞ。」

しかし、その十メートルの、なんと長いことだろう。助けを、かたくなにおしのけた達也は、今まったくのひとりぼっちだった。ひとりぼっちに見えたとき、ふしぎなことに全員が乗り出したのだった。合唱^エがひびいた。

ヨイシヨッ

「もうすぐよ。」れい子は金切り声^{かなき}でさげんだが、その声は大合唱にかき消えた。れい子は、もう泣いていた。



ゴールが近づくにつれて、大合唱はいっそう高くなった。十人ほどの先生がたも、真っ赤かになってりきんでいる。見ているものにとっては、ただそうするだけしかなかった。たので。

「ぶつかるなよ。」

校長先生がどなった。けれども、達也はオーバーフローにごつんと頭をぶつけ、あきれたことにまたもよたよたとターンしようとした。

4 「あっ。」と、みんなが息をのんだ。そのようすを見るなり、校長先生はすばやくプールに飛びこんだ。細いうでを、ぐいとつかんだ。

「ばかだなあ、ぼうず。もう終わったんだ。」

達也はふしぎそうに先生の長い顔を見上げ、力なくにいつと笑った。

「よくやったぞ。」

ふんどし校長はのどにつまったような声をおし出した。達也はかすかにうなずいた。

大きな仕事をやり終わったように、満ち足りた目でもう一度うなずいてみせた。校長先生をおしのけて、自分の力ではい上がったものの、かれはふらふらとよろけた。康一がその冷えオきった親友のからだを、がっしりと受け止めた。

5 はげしいはく手が、どっとわきおこった。子どもたちみんなが笑っていた。先生がたもにこにこ手をたたいた。そのなかで、ふんどし校長だけは長い顔を天におむけて、しきりにあごをひっぱっていた。越智俊一郎おちしけんいちろうは、わけもなくふきこぼれそうになるなみだを、太陽にかわかしているのだった。

(川村たかし「ふんどし校長」による。一部省略)

(注) 金切り声…かん高い声

オーバーフロー…プールのわきにある余よ分ぶんな水みづの排はい水すい口

越智俊一郎…校長先生(ふんどし校長)



1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

オ

2 線「ヨイシヨ」を、下の「y」に

続けて、ローマ字で書き表しなさい。
ただし、すべて小文字で書くこと。



3 線2「康一はじれたそうにわめいた」とありますが、その理由として最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア 達也の泳ぐスピードがおそく、ロープにぶつかるたびにしずんでおぼれてしまうから。
- イ 達也の泳ぐスピードがおそく、助けてやりたいのに声をかけることしかできないから。
- ウ 達也がみんなのおうえんの声を聞いていないために、全然スピードが上がらないから。
- エ 達也が校長先生の教えた通りに泳いでいないために、全然スピードが上がらないから。

4 線3「よたよたと」同じように、達也のつかれきったようすをくわしく表していることばを、泳ぎ終えたあとの場面から五字で書きぬきなさい。

5 線4『あっ。』と、みんなが息をのんだ」とありますが、その理由を次のようにまとめるとき、に当てはまることばを、文中から十字以内で書きぬきなさい。

達也が、ゴールしたにもかかわらず、また

から。



6 線5「はげしいはく手」とありますが、どのような意味のこもったはく手ですか。最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア 校長先生のやさしさと男らしい勇気のある行動をたたえるはく手。
- イ 康一や五年生の仲間全員と達也との美しい友情をたたえるはく手。
- ウ 全員が一体となって最後までおうえんしたことをたたえるはく手。
- エ 達也がおくれながらも最後まで泳ぎきったことをたたえるはく手。

7 校長先生の達也に対する言葉と、そのときの気持ちやようすの変化を次のようにまとめるとき、に当てはまるものとして最もふさわしいものを、あとのア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

「がんばれっ。負けるな高木。まだまだいけるぞ。」	はげまし、おうえんしている
「ぶつかるなよ。」	心配し、注意をうながしている
「ばかだなあ、ぼうず。もう終わったんだ。」	<input type="text"/>
「よくやったぞ。」	ほめたたえ、感動している

- ア いらだち、あきれている
- イ いらだち、ばかにしている
- ウ いとおしみ、いたわっている
- エ いとおしみ、なぐさめている

